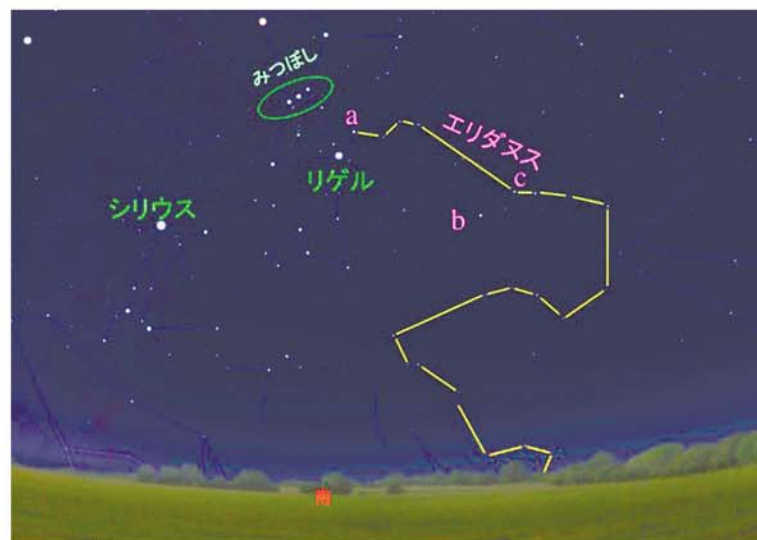


暗くなった午後7時ごろ、南の空を眺めてください。ほとんど真南の空高くオリオン座の「みつぼし」とその東側にキラキラ輝くシリウスが見えています。「みつぼし」の右下にあるリゲルという一等星が見つかると思いますので、そのすぐ右側の星(図1のaの星)から始まる、長い長い星座を紹介しましょう。

aの星はクルサと言う名前前で「足台」という意味です。オリオンの足を置くとしても言うのでしょうか。この星からエリダヌス川が始まります。bの星はザウラク(船の星)、cの星はフナ(カエル)です。一つ一つの星は追えなくても、なんだか暗い星がだらだらと並んでいるなど思っていたら

## オリオンの右下 長い川



ければ十分だと思えます。この川の果て、地平線の下にはアケルナルという青白い0等星があります。そ

のキラキラ感はシリウス以上で、それもそのはず、アケルナルの表面温度はシリウスより高いのです。赤道

近辺や南半球に旅行する時は見つけてみてください。ギリシャ神話では太陽神アポロンが4頭の天馬に引



【図2】アポロンの太陽の馬車を描いたポール(提供・大英博物館)

【図1】2月中旬、午後7時ごろの南の空

かせた「太陽の馬車」で天空を毎日駆けるそうです(図2)。アポロンが駆け上ると朝になり、海に駆け下ると夜になるのです。あるとき、アポロンの息子のパエトンは父のように空を駆りたいと、太陽の馬車を借りて、空に走りだしました。しかし、太陽の馬車はパエトンが操るには難しすぎて馬車は暴走、至る所で火事になってしまいました。大神ゼウスは仕方なく、雷を打って太陽の馬車を撃ち落としてしまいました。パエトンはエリダヌス川に落ちてしまいました。パエトンの姉妹たちは彼を手厚く葬ったそうですが、嘆くあまり彼女たちはポプラの木になり、その涙は琥珀(こはく)になったそうです。

やまがた天文台

山形市の山形大小白川キャンパス内。毎週土曜日、星空ガイドツアーを開催。時間は午後6時15分～、同6時45分～、同7時15分～。参加料は小学生以上200円。

問い合わせは山形大インフォメーションセンター023(628)4050